

重点2 森林、緑地の保全等の推進

2-1 森林の多面的機能の発揮の促進

森林は、水源かん養機能を始め、二酸化炭素を吸収し貯蔵する機能、多様な生態系を維持する機能、自然学習や環境教育の場としての機能など、多面的な機能を有しています。

本県は、豊富な森林資源を有し、県土の約78%を森林が占め、県民1人当たりの森林面積3,931m²は、国民一人当たりの森林面積1,988m²に比べると約2倍であり、多面的機能の効果をより享受し、また、市街地における緑地は、大気浄化、ヒートアイランド現象の緩和、余暇空間の創出など、県民の健やかで潤いのある生活環境の確保に大きな貢献をしています。

これら森林や緑地の有する多面的機能を発揮させていくため、森林の適正な維持・管理を計画的に図るとともに、都市部での緑化を推進していく必要があります。

1 森林区分に応じた森林整備(森林整備課)

森林の有する多面的機能を重視すべき機能に応じて、「水土保持林」、「森林と人との共生林」、「資源の循環利用林」に区分し、それぞれが有する機能が持続的に発揮されるよう、森林整備を実施しています。

2 間伐の促進(森林整備課)

県土の保全、水資源のかん養、保健・文化・教育的利用、生物の多様性の維持保全、地球温暖化防止などの、県民の森林の役割に対する期待に応えるため、間伐を推進しています。

平成12年度には、山梨県緊急間伐推進計画(平成12年度～平成16年度)を策定し、また、平成17年度には、山梨県間伐等推進計画(平成17年度～平成19年度)を策定して、本県における間伐推進の現状と今後の課題を踏まえた間伐推進の取り組み方向を示すとともに、年度ごとに間伐等実施面積の目標を定めて、重点的に取り組んでいます。平成12年度から平成17年度までの実績は次表のとおりです。

	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	(ha) 合計
間伐計画	2,833	2,443	2,443	2,443	2,438	3,833	16,433
間伐実績	4,111	4,892	3,756	4,435	3,965	4,171	25,330

山梨県間伐等推進計画実績

県内で実施される全ての間伐等の集計(ただし国有林を除く)

3 森林吸収源対策推進プランに基づく重点区域における森林の整備(森林整備課)

森林吸収源対策の推進に貢献するため、他地域への波及効果が期待できる森林を重点区域に選定し、当該森林整備における問題点の検討や森林整備事業計画を作成し、実施しています。

地域名	計 画 量 (ha)	延実行量(ha)	進 捗 状 況
南アルプス市城山地域	91.11	59.90	66%
山梨市牧丘町杣口地域	43.01	26.40	61%
南部町塩沢地域	36.53	31.44	86%
北杜市須玉町小尾地域	33.24	18.47	56%
上野原市柵原地域	20.71	2.87	14%
忍野村内野地域	121.05	85.89	71%
計	345.65	224.97	65%

平成17年度末 重点区域整備状況

4 森林環境総合整備推進事業(県有林課)

第6次県有林経営計画において、「持続可能な森林経営の推進」を計画しており、高齢級森林や緩衝林において、抜き伐り・小面積皆伐・素材搬出を行い、県有林の公益的機能の持続的発揮と森林資源の循環利用の推進を図っています。平成12年度以降、右表のとおり間伐面積322ha 素材の搬出27,644 m³を実施しました。

間伐実施箇所では林床部に陽光が入り、多様な下層植物が繁茂し、美しい森林景観となっています。

	間伐(ha)	素材搬出(m ³)
全体計画	785	52,371
H12年度	62	4,880
H13年度	53	4,854
H14年度	35	4,172
H15年度	48	4,819
H16年度	61	4,798
H17年度	63	4,121

森林環境総合整備推進事業(全体計画と実行)

5 森林生態系モニタリング調査(県有林課)

本県における「持続可能な森林経営」を確実なものとするため、モデル流域(北杜市・塩川ダム上流域)において、4項目について次表のとおりモニタリング調査を実施しました。

この調査結果により、生態系の健全性を確保しながら、社会的、経済的な便益を供与するための森林管理手法の開発を目指しています。

調査項目	森林管理基準	調査内容
昆虫・菌類調査	生物多様性の保全	森林タイプごとの昆虫と菌類(きのこ)出現種数の調査
植生調査	生物多様性の保全 森林生産力の維持	森林タイプごとの植生調査 流域内の年間成長量と伐採量調査
水質・水量調査	土壌・水資源保の保全	流域内河川の水質・水量調査
炭素循環調査	炭素吸収・貯留機能の維持	森林タイプ別の炭素蓄積量と炭素動態調査

6 森林セラピーの推進(森林環境総務課)

森林浴などのレクリエーション活動や健康の回復・維持・増進を図るための取り組みが、森林セラピーです。

平成 17 年度においては、医療、福祉、観光、環境、森林関係者等の専門家 11 名で構成された「山梨県森林セラピー研究会」を設立し、県内における森林セラピーの推進について、目的や効果、フィールドのあり方、推進方法等、具体的な取り組みの手法を明らかにするとともに、医療・福祉・観光・環境・森林関係者等の連携を推進するための方策を検討しました。また、この研究会の検討による成果を生かし、森林セラピーの目的や効果、フィールドのあり方、推進方法等を内容とする、「森林セラピー推進指針-『森の癒し』活用に向けて-」を作成しました。さらに、市町村レベルでの展開を図るため、地域における取り組み体制の整備に対して補助を行いました(平成 17 年度、南アルプス市)。

2-2 森林環境教育の推進

1 森林総合研究所の森林教育等(森林環境総務課)

(1)森の教室

展示室、工作室、図書コーナーなどの施設や森林科学講座、体験学習、木工教室などの各種イベントの開催により森林、林業について幅広い普及啓発を行っています。平成 17 年度の来館者数は 19,397 人であり、実施したイベントの実績は次のとおりです。

研修教科	内容	講師	実施日	参加者数
やさしい森の科学講座	植物観察と山菜教室	森林総合研究所 戸沢一宏	17.5.15	25
	森の昆虫教室	森林総合研究所 大澤研究員	17.7.10	35
	枝打ち体験と森のお菓子作り教室	指導林家 天野 和喜	17.9.25	19
	天然キノコの見分け方教室	森林総合研究所 柴田主任研究員	17.10.2	47
	炭焼き体験学習	森林総合研究所 名取研究管理幹	17.12.4	16
	キノコ植菌体験教室	森林総合研究所 柴田主任研究員	18.2.12	29
	間伐体験と押し花教室	森林総合研究所 田中主任研究員	18.3.5	20
		ヴォーグ社インストラクター 山岸一恵		
小計				191
屋外木工教室	プランター作り	森の教室職員	17.4.16 17.4.17	100
	ヒノキ間伐板材の型抜き	森の教室、森林総合研究所職員	17.10.15 ~ 17.10.16	200
小計				300
木工、クラフト教室	CDラック作り	森林総合研究所 鈴木技能員	H17.6.12	16
	多目的ツール作り	森林総合研究所 鈴木技能員	17.8.8	28
	小枝で遊ぼう	森の教室職員	17.8.20	18
	花台作り	森林総合研究所 鈴木技能員	17.9.11	20
	蔓を編む	外崎玲子	17.11.6	24
	クリスマスリース作り	外崎玲子	17.11.27	37
	木工 & 餅つき教室	森林総合研究所 鈴木技能員	17.1.15	31
小計				174
計				665

(2) 附属機関の活動(八ヶ岳薬用植物園)

ハーブなどの薬用植物や特用林産の利用、栽培方法を研究し、一般に普及している。平成17年度の来園者は15,540人でした。なお、実施した研修実績は次のとおりです。

研修区	内 容	講 師	実施日	曜日	参加者数
山菜利用	山菜料理教室	栄養士 茅野 しずか	H17.5.8	日	20
山菜栽培	山菜栽培教室	森林総合研究所 戸沢 一宏研究員	H17.5.29	日	20
ハーブ栽培	ハーブ栽培教室	園芸指導家 下司 高明	H17.6.18	土	20
ハーブ利用	ハーブ料理教室	ハーブ研究家 興石 睦子	H17.6.26	日	19
薬草利用	漢方で使われる薬草	薬剤師 須藤 一	H17.7.10	日	20
野草利用	親子草木染め教室	森林科学館 小野寺 藤美	H17.7.24	日	24
自然体験	親子植物観察ウォーキング	斉藤 敬文	H17.8.7	日	16
クラフト	親子木工教室	森林総合研究所 鈴木 泰仁	H17.8.21	日	18
きのこ	きのこ採取鑑定会	森林総合研究所 柴田 尚主任研究員	H17.9.10	土	36
ハーブ利用	ハーブ利用教室	ハーブ研究家 興石 睦子	H17.9.25	日	18
きのこ栽培	きのこ栽培体験会	森林総合研究所 柴田 尚主任研究員	H17.11.20	日	16
木炭	炭焼き教室	森林総合研究所 小林 茂樹	H17.12.10	土	10
小 計					237
季節事業	ブルーベリー摘み取り ジャム作り体験	八ヶ岳薬用植物園 鷹野 永太、藤原 美彦、堀内順子	H17.7~8		152
小 計					152
計					389

2 学校林の活用推進(みどり自然課)

学校週5日制の実施や総合的な学習の時間の創設に伴い、森林の教育的利用に対するニーズが高まってきている中で、児童・生徒の森林環境教育の場として学校林を活用するために必要な初期段階での環境整備に対し助成をしています。

3 どんぐりクラブ育成(みどり自然課)

この事業は、小学生以下の子ども達に、山や森、公園に落ちているどんぐりを拾う活動を通じて、緑に親しみ、森林を大切にすることを育んでもらうことを目的に実施しています。また、集まったどんぐりは環境教育等への活用を図るため、県緑化センターで養成し、希望した小中学校や公園等に配付しています。

2-3 緑化の推進

1 緑化まつりの開催(みどり自然課)

緑や森林に対する関心が高まる中で、森林の果たす役割や緑化に対する県民意識の高揚を図り、県民の緑化活動への積極的な参加を促進するため、毎年4月29日(みどりの日)に県民緑化まつりを開催し、記念式典、植樹等を実施しています。

(平成17年度県民緑化まつり)

- ・開催日 平成17年4月29日
- ・会場 (記念式典)道志中学校体育館、(植樹)道志村林間広場
- ・参加者 県民480名

2 緑化センターの活動(みどり自然課)

豊かなふるさとづくりを目指し、県民の緑化思想の高揚と緑化の知識・技術の普及を図るため「緑の教室」、「緑サポーター養成研修」等を開催し、当該事業の充実に努めながら緑に関する総合窓口としての機能を発揮するよう努めるとともに、グリーンアドバイザーによる緑化相談を実施し、緑にふれあい、親しむ知識・技術や活動の援助・指導を行っています。

また、県民の緑に対する関心、要望等が高まる中で、直接緑とふれあい親しむ場として、県内の樹木等を植栽した郷土の森、花木の森、実習園、小庭園等を配置した緑化見本園の維持管理を行い、来園者に緑化思想の普及を図り、併せて緑化設計の指導・助言を行いました。近年は、幼稚園・保育園・小学校の園児児童や家族連れなど多くの見学者が同見本園を訪れており、これに伴う園内の案内や見学者に対し緑化思想の啓発を行っています。

さらに、天然記念物等の貴重な樹木の衰弱が多く発生しており、これら樹木診断のため、グリーンアドバイザーが現地に出向き管理指導を行っています。

(業務の概要)

【みどり普及の推進】

(1) 緑化思想の高揚、緑化知識・技術の普及

- 緑化相談(年間相談件数 981 件: H17実績)
- 緑の教室の開催(年間 24 回開催: H17実績)
- 親子緑の集い開催(年間 2 回開催: H17実績)
- 子ども樹木博士認定(参加者 68 名: H17実績)
- 緑サポーター養成研修の実施(養成者数 43 名: H17実績)

(2) 公共施設等の緑化設計の指導、助言

(3) 緑化研修の開催、緑化情報の収集・提供

(4) 緑化見本園の管理

- ・場所: 甲斐市篠原(昭和54年4月オープン)

・ 面積:21,391㎡ ・ 植栽樹木:22,680本

【みどりづくりの推進】

(1) 公共施設の環境緑化

公共用緑化樹の配付（県及び市町村の公共施設に毎年約1万本を配付）

県有施設の緑化事業（大型緑化樹の植栽等による緑化）

市町村公共施設の緑化事業に対する助成

(2) 環境緑化用樹木の養成

公共用緑化樹及び大型緑化樹の養成（県内5箇所緑化園で約4万本を養成）

グリーンバンク事業（不用となった大型緑化樹の引き取り及び再利用）

2-4 ふれあいの機会の提供

1 ふれあいの森林と人づくりの推進(林業振興課)

「ふれあい地域(里山森林)」に対する森林の保全・整備や利用を推進するとともに、県民への森林情報提供や森林ボランティア等人材の育成を図るため、平成17年度に次の事業を実施しました。

(1)100万本植樹運動

「人と自然との共生」を目指して開催した第52回全国植樹祭の成果を途切らせることなく、21万本植樹運動に引き続き、恩賜林御下賜100周年に向けて、一般県民や森林ボランティアによる「100万本植樹運動」を展開し、県民参加による森林づくりを推進することを目的に実施しています。

平成17年度は、南都留郡道志村ほか14箇所で公募による植樹を行うなど、森林ボランティア900名の参加により約115,500本が植栽されました。

(2)森林ボランティア支援事業

県民が林業体験を通して、森林・林業に親しみながら認識を深め、ボランティアとして自発的・積極的に森林づくりを行う「フォレスト・サポートクラブ」など森林ボランティアを育成するための支援を行う事業であり、平成17年度は甲府市羽黒町地内において、森林ボランティア29名が参加し、森林内における安全作業、作業技術等に関する研修を行うとともに、森林・林業に関する啓発活動を実施しました。

(3)みどりのインストラクターバンク事業

森林・林業・緑化等に専門技術・知識を備えた人材(指導林家、青年林業士、樹木医、森林インストラクター、林業研究グループリーダー、林業技士、林業技術士、みどりの指導員)の中から、「みどりのインストラクター」として登録し、林業普及と指導活動を支援するための事業であり、平成17年度は1月に27名のみどりのインストラクターが参加し、バイオマスに関する研修会を実施するとともに、林業普及指導に関する意見交換会を行い、協力・連絡体制の強化を図りました。

2 森林文化の森の整備(県有林課)

近年では、人間性、親子の絆といった精神面の形成や情操教育の面から、“人と森林、人と人のふれあい”の重要性が高まっており、かつてのような生活様式を基盤とした森林との関わり方を再評価し、新たな人と森林との共生を模索し、実現していく森づくりが求められています。

そこで、地元の方々の貴重な意見を踏まえ、県有林を主とした県下 12 箇所に「森林文化の森」を整備していくこととし、平成 10 年度に整備計画を策定し、平成 11 年度から各地域の歴史特性、景観、森林の特徴を活かして歩道やトイレ等の整備、森林整備を行い、平成 15 年度に施設整備を終了しました。

なお、既存の県民の森、武田の杜、金川の森についても森林文化の森として位置づけを行い、主催事業の実施などを通じて、森林文化の森の利用促進の先導的役割を果たしています。

ねらい

- ・活力ある山村づくりと中山間地域の振興・山梨の原風景の再生
- ・体験を通じた森林観の形成
- ・人間性の回復と親子の絆の強化
- ・自然教育の推進

整備の基本方針

- ・森林そのものを活用した場所づくり
- ・地域の特性を生かした景観づくり
- ・文化的要素の導入
- ・積極的な利用促進策の展開
- ・市町村等との連携

整備箇所

- ・釜無水源の森 峡北地域(北杜市白州町)
- ・八ヶ岳の森 峡北地域(北杜市長坂町、北杜市大泉町、北杜市小淵沢町)
- ・瑞牆の森 峡北地域(北杜市須玉町)
- ・乙女高原の森 東山梨地域(山梨市牧丘町)
- ・兜山の森 東山梨地域(笛吹市春日居町)
- ・大菩薩の森 東山梨地域(甲州市塩山)
- ・小金沢シオジの森 東部地域(大月市)
- ・稲山の森 東八代地域(笛吹市八代町)
- ・河口の森 富士北麓地域(富士河口湖町)
- ・十谷の森 峡南地域(諏訪町)
- ・本栖の森 富士北麓地域(身延町、富士河口湖町)
- ・思親山の森 峡南地域(南部町)

利用促進策の展開

森林文化の森では、整備された歩道、森林をフィールドとして県、市町村、有識者、他地域住民などからなる「森林文化の森連絡会議」が自然観察、林業作業体験、木工作、ボランティア活動など誰でも気軽に参加できる「森林体験プログラム」を実施しています。

現在は、全ての森林文化の森で連絡会議が設置されているため、森林体験プログラムに参加することができます。森林文化の森での施設配置や森林体験プログラムへの参加者募集については、パンフレット、県及び関係市町村の広報、県のホームページ、チラシなどを通じて情報提供を行っています。

森林文化の森での施設配置や森林体験プログラムへの参加者の募集については、パンフレット、県及び関係市町村の広報、県のホームページ、チラシなどを通じて情報提供を行っています。

3 森林公園の管理運営(県有林課)

県民の森、武田の杜、金川の森の3つの森林公園は、森林科学館、キャンプ場、ターゲットバードゴルフ場など、それぞれ特色ある施設を備え、青少年を始めとした県民に自然に親しみ学ぶ場を提供しており、各森林公園では年間 15 回程度、自然観察や林業体験等の主催事業を開催しています。

	県民の森	武田の杜	金川の森
所在地	南アルプス市	甲府市	笛吹市
面積(ha)	953(うち管理面積14) ha	2,500(うち管理面積202) ha	36.2 ha
開園時期	昭和43年	昭和48年	平成8年
主な施設	森林科学館、林間広場、休憩舎、遊歩道他	キャンプ場、森林学習展示館、自由広場、遊歩道他	ターゲットバードゴルフ場、乗り物広場、木製遊具、芝生広場
主催事業の内容	草木染め、水の中の生き物観察会、コウモリ観察会、森づくり体験等	さくら祭り、野生きのこ教室、森のキャンプ、竹細工教室、武田の杜ウォーキング等	植樹、自然観察会、写真教室、植物細密画教室、交通教室、ターゲットバードゴルフ大会等

森林公園の概要

4 「山の日」啓発活動(森林環境総務課)

山梨県は、日本を代表する山々に囲まれた山岳県であり、また、県土の 78%を森林が占める全国有数の森林県です。

こうした恵まれた環境にある本県において、山や森林から受ける恩恵は計り知れないものがあり、これらの山や森林は、良好な形で次代へと引き継いでいかななくてはなりません。

先人のたゆみない努力により、守り育まれてきたこの山や森林を見つめ直し、その恩恵に改めて感謝するとともに、県民の自発的な森林づくりをはじめとする環境保全活動を通じて、現在及び将来にわたって、県民が豊かな山や森林の恩恵を享受できる人間と自然との共生社会を構築することを期して、毎年「8月8日」を『やまなし「山の日」』として定めています。

「山の日」の啓発活動として、やまなし「山の日」実行委員会において次の事業を実施しました。

平成 17 年度事業実施内容

(1) 普及啓発事業

- イベントガイド及びポスターによるPR活動
- 県民情報プラザ県展示コーナーへの展示
- キャンペーン用品の積極的な活用
- 街頭でやまなし「山の日」をPR
- 各種媒体(新聞、広報誌)での啓発

山の日宣言

山に親しむ 山に学ぶ 山と生きる

山梨は、日本を代表する山々に囲まれた山岳県であり、全国有数の森林県である。この山や森林を見つめ直し、その恩恵に改めて感謝する契機とすべく、山に親しみ、山に学び、山と生きることを目指して、ここに、やまなし「山の日」を宣言する。

一 私達は、さわやかな空気、清らかな水、緑豊かな美しい景観、安全な生活など、その計り知れない恩恵が山や森林から与えられていることを確認する。

一 私達は、山や森林に親しむことを通じ、そこで育まれた歴史や文化、産業、自然などを学び、山や森林と私達との密接な関係を再認識する。

一 私達は、先人のたゆまぬ努力により、守り育てられてきたこの山や森林を良好な形で 次代へと引き継いでいかななくてはならない。

一 私達は、自然との共生、市民参加の森づくり、山村地域の活性化などを推進するため、意識を変革し、行動することを決意する。

一 私達は、山や森林の重要性に対する理解を深め、山の日が全国的なものとなるよう広く呼び掛けていくものとする。

平成九年 八月 八日 山梨県知事 天野 建

(2) 記念事業

山の日フォーラム

『山と森林の魅力とその活用』をテーマに、山の日フォーラムを実施しました。当日は約200名の参加があり、「山梨百名山」の楽しみ方や森林セラピーの可能性など、森林の多角的な活用方法が議論されました。

平成 17 年 8 月 8 日(月) 13:30～16:00

山梨県甲府市総合市民会館芸術ホール

・基調講演 講師: 谷田貝 光克(東京大学大学院農学生命科学研究科教授)

・パネルディスカッション

パネリスト 川嶋 直 (キープ協会常務理事)

深沢 健三 (タウン企画取締役本部長 日本山岳会会員)

谷田貝 光克(東京大学大学院農学生命科学研究科教授)

渡辺 玉枝 (登山家)

コーディネーター 辻 一幸 (早川町長)

山梨百名山チャレンジ登山

山梨県山岳連盟との共催により、山梨百名山の2座を選び、山梨百名山チャレンジ登山を実施しました。参加者: 89 名



(3) 関連事業

関連イベントの開催

「山の日」のコンセプトに合致する自然体験、自然学習など県民が広く参加できるイベントを募集し、県、市町村、関係団体により46イベントが開催されました。

山村施設無料招待

山梨の山村を訪れて山や森林の魅力を知っていただくため、抽選で山村施設への無料招待を実施しました。

山の日写真コンクール

山の日コンセプトである「山に親しむ」「山に学ぶ」「山と生きる」にふさわしい山や森林と人々とのかわり、交流の様子をテーマに募集しました。

やまなし「山の日」関連イベント助成

やまなし「山の日」に関連したイベントの実施を希望する民間団体に対し、その経費の一部を助成することにより「山の日」の普及啓発に対する民間参加の機会の拡大を図りました。

5 森のやすらぎエリア整備事業(森林整備課)

森林は、人々の心に「癒し」や「和み」をもたらしてくれるとともに、観光地やビューポイントが持つ雰囲気と調和させることが求められています。

こうした中、地域の景観特性を踏まえた美しい森林空間を創出するため、森林を観光客の視点や動線に立って見つめ直し、新しい視点で、展望伐採や間伐、林内整理などの森林整備や案内板、歩道等の設置を実施しています。

平成 17 年度は、「乙女高原の森」(山梨市)、「本栖の森」(身延町)などの森林文化の森や高須林道(北杜市)、大窪鶯宿林道(笛吹市)などの林道からの眺望に配慮した整備等を県有林内 25 箇所で行いました。